

平成19年度第3回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2008年4月～7月)のポイント

海況

潮岬以東の黒潮は、期間を通してN型基調で推移する。4～5月、一時的にB型流路からC型流路となる。沿岸水温は、潮岬以西で「平常並み」～「高め」、日向灘で「平常並み」～「やや低め」、熊野灘～伊豆諸島北部で「平常並み」～「やや低め」で暖水波及時に「高め」、伊豆諸島南部で「平常並み」～「極めて高め」でC型時に「極めて低め」～「低め」、外房～銚子・九十九里海域で「平常並み」～「やや高め」、犬吠埼以北で「平常並み」～「高め」で親潮系冷水南下時に「極めて低め」となる。

- ※ 平常並み＝平常値±0.5℃程度、
 (やや高め、やや低め)＝平常値±1.0℃程度、
 (高め、低め)＝平常値±1.5℃程度、
 (極めて高め、極めて低め)＝平常値±2.5℃以上

漁況(来遊量予測)

マサバ・ゴマサバ太平洋系群

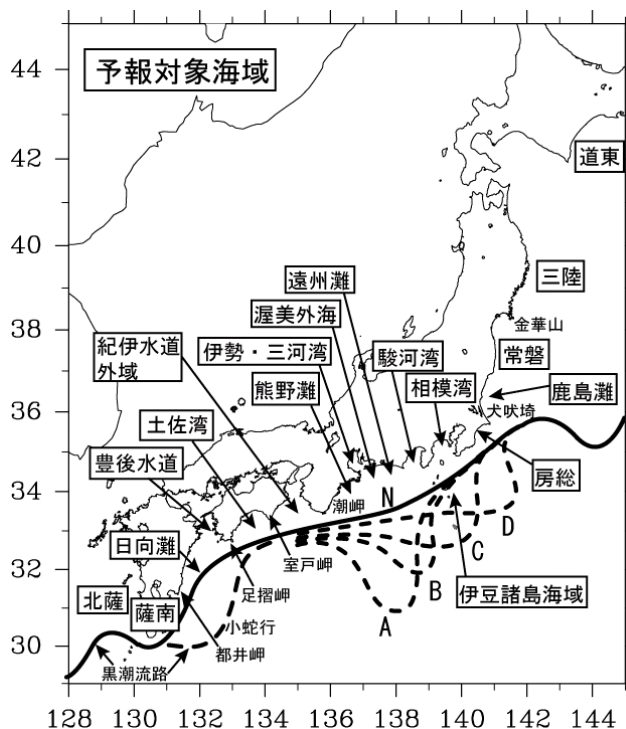
1歳魚は前年を上回る。
 全体としては下回る海域が多い。

マイワシ太平洋系群

1歳魚主体の漁が継続する海域も見られるが、
 全体としては低水準で推移する。

カタクチイワシ太平洋系群

前年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、田中、佐藤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>

中央ブロック海況予報

今後の見通し（2008年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと。）

◎薩南海域

- ・黒潮北縁は、屋久島南付近での変動が多く、6月に離岸傾向となる。

◎潮岬以西

- ・黒潮は、九州南東沖～四国沖の離岸傾向が4月中に解消し、5月以降は接岸傾向で推移する。

◎潮岬以東

- ・黒潮は、期間を通してN型基調で推移する。4～5月、一時的にB型流路からC型流路となる。
- ・野島埼沖の黒潮は、期間を通して接岸傾向で推移する。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎潮岬以西

- ・黒潮流軸の離接岸変動に伴って、一時的に暖水が波及することがある。

◎潮岬以東

- ・熊野灘～伊豆諸島北部海域は概ね冷水域に入る。
- ・伊豆諸島南部海域は蛇行部の変動に伴って一時的に冷水域に入ることがある。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・犬吠埼沖の黒潮の離接岸に伴って黒潮系暖水が沿岸域へ波及することがある。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は「平年並み」～「高め」で推移する。日向灘は「平年並み」～「やや低め」で推移する。
- ・熊野灘～伊豆諸島北部は「平年並み」～「やや低め」で暖水波及時に「高め」で推移する。
- ・伊豆諸島南部は「平年並み」～「極めて高め」で推移する。C型時に「極めて低め」～「低め」となる。
- ・外房～銚子・九十九里海域では「平年並み」～「やや高め」で推移する。
- ・犬吠埼以北は「平年並み」～「高め」で推移する。親潮系冷水南下時に「極めて低め」となる。

※ 平年並み＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、

（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過（2008年1月～3月）（注：経過は図2を参照のこと。）

(1) 黒潮

- ・12月下旬、C型流路からD型流路へ移行した。
- ・1月中旬、蛇行の東進に伴い一時的にC型流路となった後、1月下旬にD型流路へ移行した。
- ・2月～3月上旬、N型流路で推移した。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・1月、黒潮北縁は屋久島南付近で推移した。
- ・2月～3月上旬、黒潮北縁は接岸傾向で推移した。

◎潮岬以西

- ・1月～2月中旬、都井岬沖では「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移した。
- ・1月～3月上旬、足摺岬沖では「離岸」傾向で推移した。
- ・1～2月、室戸岬沖では「接岸」傾向で推移したが、3月上旬に「離岸」傾向となった。

◎潮岬以東

- ・1月～3月上旬、潮岬沖では小蛇行の通過による変動を伴いつつ、概ね接岸傾向で推移した。
- ・1～2月、熊野灘～相模湾は概ね冷水域であったが、一時的な暖水波及が繰り返し見られた。
- ・3月上旬、黒潮の蛇行に伴い、伊豆諸島北部～相模湾にかけて暖水波及があった。
- ・1月上旬と1月下旬、房総沖で黒潮の蛇行に伴う大きな離岸が見られた。
- ・2月上旬以降、房総沖では接岸傾向で推移した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・1月、黒潮系暖水が沖合から沿岸域へ向かって広く波及した。
- ・2月、海域全体が広く黒潮系暖水でおおわれた。
- ・3月上旬、沖合に北方から混合水が南下し、暖水域が縮小した。

現況 (2008年3月21日現在)

(1) 黒潮

- ・黒潮はN型流路で推移している。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・黒潮北縁は屋久島の北に位置している。

◎潮岬以西

- ・黒潮は都井岬沖～室戸岬沖で「やや離岸」、潮岬沖で「接岸」している。

◎潮岬以東

- ・黒潮は熊野灘沖～遠州灘沖の $33^{\circ} 20' N$ 付近を東へ流れ、 $139^{\circ} E$ 付近から北東に向きを変え、御蔵島付近を通過し、房総沖を北東へ流去している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・黒潮系暖水の影響が縮小し、沖合に混合水が広がっている。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に従った。

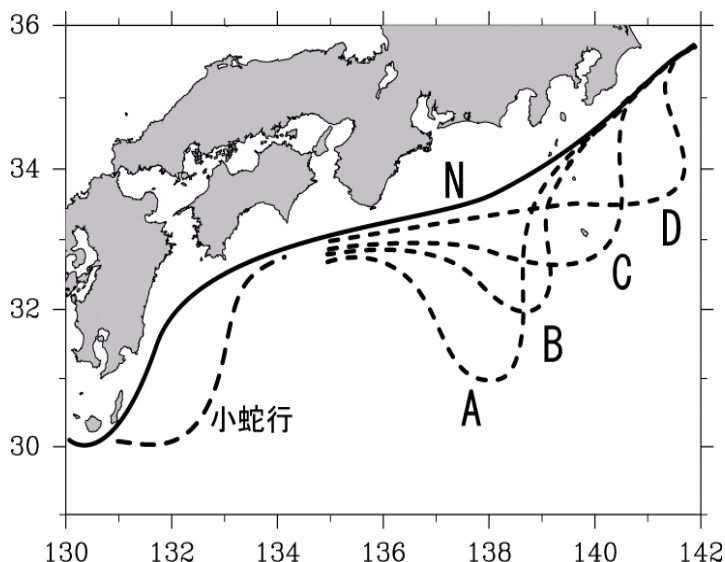


図1 黒潮流型の分類

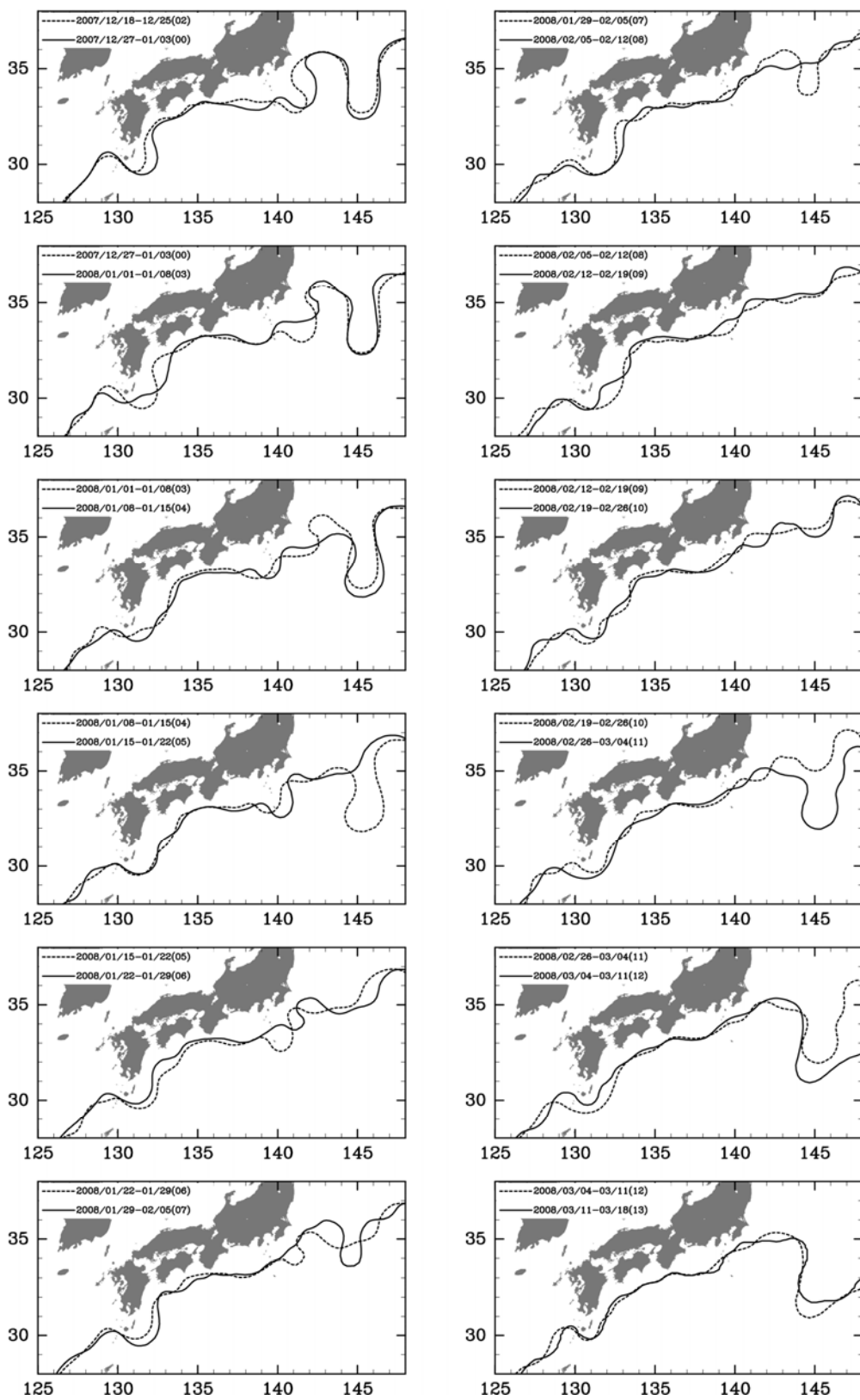


図2 黒潮流軸のパターン

(2007年12月～2008年3月，海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マサバおよびゴマサバ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し（2008（平成20）年4月～7月）

対象海域：薩南～豊後水道、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい

対象魚群：1歳魚（2007（平成19）年級群）、2歳魚（2006（平成18）年級群）、3歳魚（2005（平成17）年級群）、4歳（2004（平成16）年級群）以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。年初に加齢。

1. 薩南～豊後水道（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は、薩南では前年を上回り前々年並み、日向灘～豊後水道では前年を上回る。2歳魚は前年同様低い水準、3歳魚は前年を下回り低い水準。4歳魚は前年を上回る。サバ類全体としては、薩南～日向灘では好調であった前年を下回り、豊後水道では低調であった前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南海域では32 cm以上（4、3歳魚）主体に28～32 cm（1歳魚）が混じる。日向灘では30 cm前後以上（4、1歳魚）が主体。豊後水道では29～32 cm前後（1歳魚）が主体。

2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳以上は低い水準。サバ類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、30 cm前後（1歳魚）が主体。

3. 熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年同様低い水準。3歳以上は少ない。サバ類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、30 cm前後（1歳魚）が主体。

4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

- (1) 来遊量：マサバ2歳魚は少ない。3歳魚は多かった前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。マサバとしては前年を下回る。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年同様低い水準。3歳魚は前年を下回り低い水準。4歳魚は前年を上回ることが多くない。ゴマサバとしては前年を上回る。サバ類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：マサバは伊豆諸島北部海域が主漁場となる。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となり、北部海域ではマサバに混獲される。
- (3) 魚体：マサバは32～38 cm（4歳魚）が主体となる。ゴマサバは三宅島周辺海域では25～26 cm前後（1歳魚）、北部海域では31 cm以上（おもに4歳魚）が主体。

5. 犬吠～三陸海域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。マサバとしては前年を上回る。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年同様低い水準。3歳魚は前年を下回り低い水準。4歳魚は前年を上回ることが少ない。サバ類全体として前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：まき網の漁場は犬吠埼～常磐南部に形成される。
- (3) 魚体：マサバは28 cm以下の1歳魚が主体となる。32～38 cm（4歳魚）が期後半に混じる。28～32 cm（2歳魚）、30～34 cm（3歳魚）も混じるが少ない。ゴマサバは25 cm前後（1歳魚）がマサバに混獲される。

漁況の経過（2007（平成19）年12月～2008（平成20）年2月）および今後の見通しについての説明

1. 資源状態

(1) マサバ

資源量は1990年以降依然として低い水準にあるが、加入量水準の高い2004年級群の発生により資源量は増加傾向にある。

2003年級群（5歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2004年級群（4歳魚）の加入尾数は37億尾と、1992年級群を上回る水準と推定されている。本年7月時点での残存資源尾数は2.7億尾と3歳魚としては近年にない高い水準であったが、その後も漁獲の主体となったことから、残存資源量は減りつつある。

2005年級群（3歳魚）の加入尾数は2.7億尾程度と、加入量水準の低い2001、2003年級群並みの低い水準と判断されている。2007年7月時点での残存資源尾数は5千万尾程度であると推定される。

2006年級群（2歳魚）は、これまでの調査船調査および漁業における漁獲状況がいずれも悪い。2007年7月時点で加入尾数は5千万尾程度と評価された。その後の漁獲状況も混獲程度にとどまっており、2005年級群をさらに下回る水準と判断される。

2007年級群（1歳魚）は、2007年12月より本格的に漁獲の主体となり、2008年2月までの漁獲尾数は2004年級群、2002年級群を下回ったものの2000年級群は上回り、近年では高い水準で推移している。1～2月の漁況は低調ながら漁場は継続しており、漁業情報サービスセンターによる資源量指数および資源密度指数も比較的高い値を示している。2008年2月の中央水研による三陸～房総海域の未成魚越冬海域における中層トロール資源調査では、沿岸寄りに分布が認められ、平均CPUEは2002年級群を対象とした2003年（9.6尾/網）に次ぐ水準（3.0尾/網）であった。本調査では魚群の分布水深が比較的深いためにトロール試験の漁獲効率は変動が大きく、そのCPUEから資源水準を直ちに推定することは出来ないが、2007年の資源水準は比較的高いと考えられる。これまでの釧路水試、東北水研、中央水研による各調査船調査結果および漁況経過からみて、2007年級群の加入量水準は不確実ではあるものの、2005、2006年級群を上回り、比較的高い水準と判断される。

マサバの親魚量は2004年級群の高い加入により増加したが、続く2005、2006年級群の加入量水準は低く、2004年級群の残存資源尾数も減少していると考えられ、親魚量は今後減少すると考えられる。2007年級群は、現段階では不確実であるものの比較的高い年級であると期待され、今後のマサバ資源を支える重要な年級群であることは間違いない。親魚量の減少を一時的なものにとどめ、マサバ資源の回復を図るためには、2007年級群の保護が必要である。マサバ太平洋系群の親魚量の回復を目指した資源回復計画は20年度以降の継続が決定している。マサバ資源の回復のため若齢魚保護の努力に期待したい。

(2) ゴマサバ

資源量は1996年級群の高い加入量水準によって増加し、2004年にピークに達した後、2005、2006年級群の加入量水準が低いために減少してきているが依然高い水準にある。

2004年級群（4歳魚）は、近年の卓越年級群である1996年級群（推定加入尾数：17億尾）を上回る推定加入尾数27億尾の卓越年級群であると推定される。11月まで各地漁業の漁獲主体となっており、12月以降も他の年級群とともに漁獲されている。残存資源量は多くないが4歳魚としては高い水準にあると推定される。

2005年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が4億尾であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも豊度は低いと判断され、資源尾数は少ない。

2006年級群（2歳魚）は、推定加入尾数が1億尾であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも

豊度は過去最低水準であると判断され、資源尾数は少ない。

2007年級群(1歳魚)は、2月までの各地漁業の漁獲状況では、まき網、棒受網、たもすくいなどで2005、2006年級群の同期を上回って漁獲されており、日向灘～豊後水道や伊豆諸島、犬吠～常磐海域では漁獲物の主体となった。調査船調査では、12月までの釧路水試、東北水研、および中央水研の漁獲調査におけるCPUEや出現率は、0歳魚として2005、2006年級群を上回るものの2004年級群を下回った。前述の2月の中層トロール資源調査では、1歳時に東方沖合に広く分布した2004年級群とは異なり、例年のようにおもに143°E以西の沿岸寄りに分布しており、平均CPUEは2005、2006年級群の同期を上回り、2002年以降の同調査で最高であった。本調査では漁獲効率の変動が大きいためCPUEから資源水準を直ちに推定することは出来ないが比較的高いと考えられる。

以上の情報から、2007年級群の加入量水準は2004年級群に及ばないが、2005、2006年級群を上回り、比較的高い水準であると判断される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) マサバ

1歳魚(2007年級群)の来遊量は、加入量水準が2005、2006年級群を上回ることから、前年1歳魚(2006年級群)を上回る。2歳魚(2006年級群)の加入量水準は、前年の2歳魚(2005年級)を下回る水準と考えられ、来遊量は前年をさらに下回る。3歳魚(2005年級群)の加入量水準は2001、2003年級群並みの低い水準であり、来遊量は多かった前年3歳魚(2004年級群)を下回る。4歳魚(2004年級群)の残存資源尾数は2007年7月段階で2.7億尾程度であり、残存資源は減少しつつあるが4歳魚としては高い水準にあることから、来遊量は前年4歳魚(2003年級群)を上回る。マサバとしては前年を上回ると考えられる。

常磐海域から犬吠周辺におけるまき網によるサバ類の12～2月の漁獲は、3.5万トン(暫定)と、前年同期(6.2万トン)を下回った。千葉県以北沿岸の定置網による12～2月のサバ類の水揚量は978トン(暫定)と、前年同期(1,684トン)を下回った。まき網漁場は、1月は犬吠～常磐北部海域、2月は犬吠～常磐南部海域で形成された。3月は犬吠～鹿島沿岸に漁場が形成されている。

本予報期間の漁期・漁場は、犬吠海域以北では、期前半は犬吠海域が主漁場となり、期後半は犬吠～常磐南部海域に広がる。伊豆諸島では2月までは黒潮流型がC型であり漁場が低水温に覆われたため、ほとんど漁場が形成されなかったが、3月にはいって北部海域で漁場が形成されている。今後も伊豆諸島北部海域に暖水波及があった場合、北部海域で漁場が形成される。伊豆諸島より西の海域ではマサバの漁場形成はほとんど期待できない。

年齢別尾叉長はこれまでの尾叉長組成の推移および年齢査定結果より次のように判断される。1歳魚(2007年級群): 28 cm以下、2歳魚(2006年級群): 28～32 cm、3歳魚(2005年級群): 30～34 cm、4歳魚(2004年級群): 32～38 cm。なお各年級群の尾叉長幅は広く重なり合っており、厳密な区分は困難である。

(2) ゴマサバ

資源状態の項に前述の通り、1歳魚(2007年級群)はこれまで得られている情報から2004年級群に及ばないが2005、2006年級群を上回る加入量水準と推定され、来遊量は低水準であった前年を上回る。2歳魚(2006年級群)および3歳魚(2005年級群)は、前期までの漁況でも漁獲は少なく、資源量水準は低いと推定される。来遊量は、2歳魚は前年同様に低い水準、3歳魚は加入豊度の高い前年の3歳魚(2004年級群)と比べることから前年を下回る。4歳魚(2004年級群)は、依然として各地漁業で漁獲されており、残存資源量は多くないが4歳魚としては高い水準にあると推定され、来遊量は前年を上回る。全体の来遊量は2004年級群主体で多かった前年を下回る。

2007年12月～2008年2月のゴマサバ漁況は海域によって異なった。薩南海域では4歳魚(2004年級群)、3歳魚(2005年級群)を主体に好調であった前年を下回り平年並みであった。日向灘では1歳魚(2007年級群)、4歳魚を主体に前年、平年を下回った。豊後水道は1歳魚主体に前年、平年を上回った。宿毛湾は前年、平年を下回った。紀伊水道は1、4歳魚を主体に低調であった。熊野灘は4、1歳魚が主体で過去最高であった前年に及ばないものの平年を上回る高い水準であった。伊豆諸島周辺海域では1歳魚主体に前年を若干上回った。犬吠～常磐海域のまき網では、1歳魚主体でマサバに混獲され、漁獲量は前年を下回った。

12～2月の漁獲量は、薩南海域～紀伊水道外域は5.5千トン(前年同期実績10.4千トン)、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は9.5千トン(同14.5千トン)、犬吠以北海域は2.1千トン(同7.9千トン)であった(漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値)。

各地の漁期・漁場は、薩南海域では4、3歳魚が、日向灘では4、1歳魚が、紀伊水道～熊野灘では1歳魚がそれぞれ主体となって期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では、近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に1歳魚主体で期を通じて漁場が形成され、北部海域でもおもに4歳魚がマサバに混獲される。犬吠以北海域では、1歳魚主体に犬吠埼周辺～常磐南部海域でマサバに混獲される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1歳魚(2007年級群):32cm以下、2、3歳魚(2006、2005年級群):30～35cm、4歳魚(2004年級群):32～39cm。

マイワシ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し(2008(平成20)年4月～7月)

対象海域:北薩～道東

対象漁業:まき網、定置網、船曳網

対象魚群:0歳魚(2008(平成20)年級群)、1歳魚(2007(平成19)年級群)、2歳魚(2006(平成18)年級群)並びに3歳魚(2005(平成17)年級群)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 日向灘～駿河湾のマシラス(船曳網)

(1) 来遊量:低水準。

(2) 漁期:渥美外海～駿河湾では6月まで。

2. 北薩～熊野灘(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量:北薩～豊後水道南部西側では前年並みか下回る。豊後水道南部東側～紀伊水道外域西部では前年並みか上回る。紀伊水道外域東部～熊野灘では低水準。

(2) 漁期・漁場:全期間。全体としては散発的であるが、1歳魚主体の漁が継続する海域も見られる。

(3) 魚体:北薩並びに豊後水道南部東側～熊野灘は17～20cm(1歳魚)。日向灘～豊後水道南部西側は13cm以下(0歳魚)。

3. 伊勢・三河湾～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量:伊勢・三河湾、渥美外海では前年並み、遠州灘～駿河湾並びに相模湾では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場:全期間散発的な漁で終始する。伊勢・三河湾では6～7月。

(3) 魚体:15～20cm前後(1歳魚主体で2歳魚が混じる)で、後半には13cm以下(0歳魚)が加わる。

4. 房総～道東(まき網、定置網)

(1) 来遊量:2歳魚は前年を下回る。1歳魚は前年を上回すが、水準は高くないことから、全体として前年を下回る。

(2) 漁期・漁場:4～5月は房総海域～鹿島灘で、6月以降常磐南部海域に拡がる。常磐北部以北でのまき網の漁場形成は7月以降。三陸南部～仙台湾の定置網は5月以降。道東での漁場形成は無い。

(3) 魚体:4～5月は14～16cm、6月以降16～18cm(いずれも1歳魚)となる。

漁況の経過(2007(平成19)年12月以降)および今後の見通しについての説明

1. 資源状態:

2005(平成17)年級群は、1歳魚として2006(平成18)年6～8月、2歳魚として2007(平成19)年1～3月の房総～鹿島灘海域における活発な漁獲の主体となった。資源量水準としては、前後の年級群を上回ったが、2007(平成19)年夏季以降の漁況は低水準であり、今期の3歳魚としての資源量水準は低いと判断される。

2006(平成18)年級群は、1歳魚として、2007(平成19)年2月の未成魚越冬群調査(俊鷹丸・中央水研)での分布密度は前年を大きく下回った。その後6～7月の表中層トロール調査(北鳳丸と青海丸・東

北水研)、9~10月の表中層トロール調査(北鳳丸・東北水研)並びに6~9月に実施された表層流網調査(北辰丸・釧路水試)でも、沖合域における分布密度は低かった。さらに、1歳魚としての好漁が見られていないことから、今期の2歳魚としての資源量水準は前年を下回ると判断される。

2007(平成19)年級群は、2007(平成19)年5月の幼稚魚調査(北鳳丸・中央水研)、6~7月の表中層トロール調査(北鳳丸と青海丸・東北水研)で、2005(平成17)年級群と同程度の分布量が認められた。0歳魚としての漁獲状況は、北薩~土佐湾海域においては前年を上回る好漁を示した海域が多かった。一方、紀伊水道外域以東の海域では低水準であった。2008(平成20)年2月の越冬期未成魚調査(俊鷹丸・中央水研)では、CPUE(1時間曳網当り採集重量)が0.30(kg/網)で、2007(平成19)年の0.12kg/網を上回るものの、水準は高くなかった。房総~常磐海域の未成魚のカタクチイワシへの混獲率(尾数)も、4.2%と前年(1.7%)を上回るものの、低水準で推移している。これらのことから、2007(平成19)年級群の加入量水準は2006(平成18)年級群を上回るものの、全体として高いとは言えず、土佐湾以西と紀伊水道外域以東での来遊量の傾向は大きく異なっている。

2008(平成20)年級群は、これまでの卵採集情報やシラスの漁況では、大幅な回復を期待できないが、土佐湾以西の海域では、好漁を示してきた2007(平成19)年級群が産卵に寄与したことから、海域によっては今期の漁獲の主体となることが考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体:

マシラス:

これまでの漁況は依然として低水準で推移している。今後、渥美外海では水温が低めであり、漁期が遅く量も少なめと考えられる。遠州灘~駿河湾でも、親魚の資源量が少ないことから低水準と予測される。なお駿河湾~相模湾では、前年を上回るか近年の中では高い水準にあり、海域によってはシラス以降の漁況につながる可能性がある。

未成魚・成魚:

日向灘~土佐湾では、これまで2007(平成19)年級群(1歳魚)が比較的まとまって漁獲されてきた。昨年从今年1月以降にかけて継続的に形成された漁場においては、今後もこの年級群主体の漁が続くことが期待される。日向灘~豊後水道南部西側では、今期の漁獲の主体は2008(平成20)年級群(0歳魚)になると予測され、日向灘では親魚になった2007(平成19)年級群の豊度が高いことにより、0歳魚の豊度も高いと考えられる。豊後水道南部西側では、シラスの漁況経過から、2007(平成19)年級群ほどの豊度はないと考えられる。紀伊水道外域~熊野灘では、漁況は依然として低水準であり、今期も散発的な漁で推移すると予測される。体長組成は、現在15~20cmの1歳魚(2007(平成19)年級群)が主体となる北薩並びに豊後水道南部東側~熊野灘では17~20cm、0歳魚(2008(平成20)年級群)が主体となる日向灘~豊後水道南部西側では13cm以下と予測される。

伊勢・三河湾~相模湾では、2007(平成19)年級群(1歳魚)並びに2006(平成18)年級群(2歳魚)の水準が低いことから、全期間散発的な漁で終始すると考えられる。シラスの漁況経過から、2008(平成20)年級群の豊度は2007(平成19)年級群を上回るか、同程度に高い可能性があることから、漁期後半には漁獲に加わると考えられる。体長組成は、1歳魚(2007(平成19)年級群)主体で2歳魚(2006(平成18)年級群)が混じることにより15~20cm前後で推移し、漁期後半には0歳魚(2008(平成20)年級群)主体に13cm以下が加わると予測される。

房総以北海域においては、前年の2歳魚として漁獲の主体をなした2005(平成17)年級群に対し、今年の2歳魚である2006(平成18)年級群の漁況は低調で推移している。未成魚越冬群を形成する1歳魚(2007(平成19)年級群)も、カタクチイワシに混獲される程度であり、混獲割合は高くない。そのため、5月中旬頃までは引き続きカタクチイワシへの混獲程度で推移し、単独群を形成するのは6月以降と

予測される。漁場は、1月以降に犬吠埼～常磐南部海域に形成されており、今後、4～5月は房総海域～鹿島灘となり、6月以降常磐南部海域に拡がると考えられる。近年の推移と同様に、常磐北部以北でのまき網の漁場形成は7月以降になり、また、三陸南部～仙台湾の定置網は5月以降で、道東での漁場形成は無いと考えられる。体長組成は、1歳魚主体で推移することから、4～5月は14～16cmで成長し、6月以降16～18cmになると予測される。

カタクチイワシ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し（2008(平成20)年4月～7月）

対象海域：北薩～道東。

対象漁業：まき網、定置網、船曳網。

対象魚群：0歳魚(2008(平成20)年級群)、1歳魚(2007(平成19)年級群)、および2歳魚(2006(平成18)年級群)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～相模湾のシラス(船曳網)

(1) 来遊量：西薩・志布志湾では好漁の前年並み。日向灘では前年を上回る。土佐湾～相模湾では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

2. 北薩～紀伊水道外域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：北薩・薩南では好漁の前年並み。日向灘では前年を下回る。豊後水道では前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：北薩・薩南では5～7cm(0歳魚)主体、他の海域では12cm以下(0歳魚・1歳魚)主体。

3. 熊野灘～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量：熊野灘では不漁の前年並み。伊勢湾・渥美外海から伊豆半島東岸では前年を下回る。相模湾では不漁の前年並み。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：10～12cm(1歳魚)主体。

4. 房総～道東(まき網、定置網)

(1) 来遊量：まき網は前年を下回る。三陸の定置網は前年を上回る。道東の定置網は前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：まき網の主漁場は4月～5月に鹿島灘～外房海域、6月以降鹿島灘以北にも広がる。仙台湾から三陸南部の定置網は5月から。

(3) 魚体：11～13cm(1歳魚)主体。仙台湾から三陸南部の定置網は11～12cm(1歳魚)主体。

漁況の経過(2007(平成19)年12月～2008(平成20)年2月)および今後の見通しについての説明

資源状態：

カタクチイワシ太平洋系群の資源量推定値は1998(平成10)年から2006(平成18)年まで90万～150万トンで推移している。水準は過去20年では高位、経過は5年間で減少傾向にある。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布している。

2006(平成18)年級群は、2007年6～7月の北西太平洋におけるトロール調査で10cm以上のカタクチイワシの分布量が2001年以降で最低であったこと、2007年秋季の道東まき網が

不漁であったこと、2007年12月～2008年2月の常磐・房総海域の漁況が低調であったこと等から、近年の中では低水準であると考えられる。

2007(平成19)年級群は、紀伊水道を除く太平洋岸の各地において1～6月のシラス漁が好調であったこと、6～7月の北西太平洋におけるトロール調査で10cm未満の未成魚の分布量が2001年以降で最高であったこと、道東で夏季に0歳魚としての来遊量が多かったことから、高い資源水準にあると考えられた。一方、9～10月の表中層トロール調査による0歳魚の採集状況、および0歳魚を主対象とする房総の2そうまきの漁況は、2005(平成17)年級群(中水準)が0歳魚であった2005年の状況と類似していた。2008年2月の房総～三陸沖の越冬期トロール調査(中央水研)での分布密度は、2006(平成18)年級群が少ないことの影響もあり、2002年以降で最低の水準であった。以上の漁況および調査結果から、2007(平成19)年級群は2006(平成20)年級群を上回るものの、近年の中では中水準であると考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体：

(1) 西薩～相模湾のシラス(船曳網)

西薩・志布志湾では親魚の来遊水準が高く、周辺海域の漁況から今後も漁が継続すると考えられ、好漁の前年並みと予測される。日向灘では、海況予報から春季前半にある程度の暖水波及の発生が期待され、また夏季の海況もシラス漁に好条件と予測されることから前年を上回ると考えられる。土佐湾では、これまでの漁況経過から前年を下回ると考えられる。渥美外海では、黒潮がN型で強い暖水波及がみられず、シラスの来遊時期および親魚の産卵時期ともに前年よりも遅くなると考えられるため前年を下回ると予測される。遠州灘～駿河湾では、前年の静浦港におけるカタクチワシ水揚量と3～6月のシラス水揚量との相関などから、今期は好漁の前年を下回ると予測される。相模湾では、春シラス漁獲量と相関がある大型成魚資源量指数値(茨城水試算出)が低水準であるため、好漁であった前年を下回る。

(2) 北薩～紀伊水道外域(まき網、定置網)

北薩・薩南では、2月中旬以降カタクチワシ親魚の来遊水準が高く、今後も漁が継続すると考えられるため好調の前年並みと予測される。日向灘では、予測期間中の大羽の来遊が東日本の漁況と相関が高く、今期は常磐・房総～熊野灘で不漁であったことから、好漁は期待できず前年を下回ると予測される。豊後水道では、予測期間中の主たる漁獲対象となる1歳魚(2007(平成19)年級群)の漁獲が前年10月以降好調に推移しており、近隣海域において前年より1歳魚が多いと考えられるため、前年を上回ると予測される。土佐湾から紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(3) 熊野灘～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

熊野灘では、黒潮流路の予測が魚群の南下を妨げる型ではないが、2歳魚(2006(平成18)年級群)が低水準で大羽の来遊が見込めないため、不漁の前年並みと予測される。伊勢・三河湾および渥美外海では、水温が低めで親魚の来遊が前年より遅くなると考えられること、および本海域における前年夏秋期のシラスが不漁で地先由来の2007(平成19)年級群の資源水準も低いと考えられることから、前年を下回ると予測される。駿河湾から伊豆半島東岸では前年夏季以降のシラス漁が低調であったこと、前年のまき網による親魚の漁獲量も少なかったことから前年を下回ると予測される。相模湾では、前年秋以降に未成魚の漁獲量が少なかったこと、大型成魚資源量指数値(茨城水試算出)が低水準であることから不漁の前年並みと予測される。

(4)房総～道東(まき網、定置網)

前年12月から今年2月までの漁期における常磐・房総海域(千葉県・茨城県計)の漁獲量は、前年同期の1/2程度であり、不漁の前々年同期並みであった。また、今期は体長12cm以上の大型魚の本格的な来遊が1月以降と遅かった。常磐・房総海域では、1歳魚(2007(平成19)年級群)が中水準と推定されることから今後の漁況は上向くが、大型魚の不漁がひびき、総じて前年を下回ると予測される。なお2006(平成18)年級群は、既に残存資源量が少なく、今後の主たる漁獲対象とはならない。

三陸の定置網は、主たる対象となる1歳魚(2007(平成19)年級群)の資源量が前年同期の1歳魚(2006(平成18)年級群)より多いことから前年を上回ると予測される。

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
青森県水産総合研究センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産研究開発センター	愛媛県中予水産試験場
福島県水産試験場	愛媛県水産試験場
茨城県水産試験場	大分県農林水産研究センター 水産試験場
千葉県水産総合研究センター	宮崎県水産試験場
東京都島しょ農林水産総合センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター 大島事業所 八丈事業所	大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
神奈川県水産技術センター 相模湾試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
静岡県水産技術研究所	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
静岡県水産技術研究所 伊豆分場	独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 中央水産研究所
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	
三重県科学技術振興センター 水産研究部	